

おうみネット

2016
97
Spring

Ohmi Net | ●発行日 / 2016年3月1日 ●発行所 / 公益財団法人 淡海文化振興財団

① 特集 市民活動と多文化共生

～「多文化共生の地域づくりセミナー」より～

大阪大学特任准教授 榎井 縁さん 多文化共生支援センター所長 喜久川 修さん

⑤ おうみの市民と企業が ともに Grow

「こども食堂」で子どもたちに心温まる食事と居場所を提供

Grow 02

青少年支援

特定非営利活動法人
スペースウイン

花と緑を通して、幸せを地域に広げる

Grow 01

園芸福祉活動

ハートフルガーデナー
園芸福祉おおつ

社会貢献する「世間よし」企業紹介

Grow 04

世間よし

肉のげんさん
「元三フード株式会社」

やりたい人ができるように楽しんで活動中!

Grow 03

環境保全

特定非営利活動法人
環境と農業の融合を考える会
かぶか もり
鹿深の杜

Grow



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

市民活動と多文化共生

～「多文化共生の地域づくりセミナー」より～

■多文化共生の地域づくりセミナー

開催日：2015年12月1日(火)
 会場：ピアザ淡海 2階207会議室
 主催：滋賀県、(公財)淡海文化振興財団、(公財)滋賀県国際協会、滋賀県国際交流推進協議会
 協力：株式会社ナカザワ

滋賀県には約2万3,500人の外国人住民が住んでいます。異なる価値観を共有しあい、誰もが暮らしやすい社会をつくりあげる上で、彼らも地域社会の構成員であることを忘れてはなりません。セミナーでは(公財)淡海文化振興財団が実施している市民活動助成事業「未来ファンドおうみ助成事業」を活用して多文化共生の事業を実施する県内市民団体からの活動実績とともに、「市民活動と多文化共生」をテーマに大阪大学特任准教授の榎井縁さんにご講演いただきました。会場からは、参加者の多文化共生支援センター所長・喜久川修さんに日頃の活動の様子を後日インタビューに伺いました。市民団体などの活動実績に焦点を当て、多文化共生につながる市民活動を身近に感じていただき、また、その可能性について考えるものです。

「市民活動と多文化共生」

大阪大学特任准教授 榎井 縁さん

「外国人は住民です」
この判りやすい言葉の中に……

「外国人は住民です」～自治体の外国人住民施策ガイド～は一九九三年に作られました。地方自治法には住民の規程に国籍条項がなく、住所を有する者を住民とするというこゝんに判りやすい『外国人は住人です』という本なのですが、未だになかなかこの問題は根が深いということが判っています。

国の遅れた施策を
市民活動がカバーしてきた

総務省は二〇〇六年に地域における多文化共生推進プラン「国籍や民族の異なる人々がお互いの違いを認め合い、対等な関係を築こう」としながら、地域社会の構成要員として共に生きていくこと、を出しました。「多文化」が自然発生したような言い回しですが、実際は日本側に調整弁があつて、日系人が沢山来たのも国の施策であり、出入国や管理に関する責任は国にあるはずで、それをしてこなかった事の重

大さと、それでも人々には共に生きる事を押しつけてきたという姿勢に疑問を感じました。実際は、多くの多文化にかかわる市民活動は、周りの困っている人達と助け合い協力し合つて、国の遅れた施策を確実にカバーしてきました。

管理・統制下に置かれた現実

日本では外国人を国民・国の構成要因として未だに認めていないという事実があります。植民地支配から百五年、戦後七十年、外国人労働本格導入から二十五年経ちますが、未だに管理・統制の対象としての外国人という位置づけです。日本は九十年代には超高齢社会が到来し、それに伴う人手不足を補うため日本に定住できるビザ^{*}を発行したため、日系人というビザで、南米を中心に約三十万人が労働者として来日しました。七十年代から興行というビザでアジアから女性労働者を呼び入れました。その女性たちと日本人の間に生まれた子どもたちの置かれ

県内の取り組み① ワールドアミークラブ

「お互いに尊重して暮らせる」ことを大切に

夏休みの子どもたちの宿題が見られないという保護者の相談がきっかけで、学習支援を行うようになりました。二〇〇二年には保護者の会、学校の先生、地域ボランティアの実行委員会形式で夏休みの支援活動が始まりましたが、実際は子どもが困っている事は夏休みに限らないことが判り、二〇〇五年から毎週土曜日の支援も始めました。また高校受験を目指す子どもへの支援も始め、翌年には県立高校に入学することが出来ました。その後二〇〇七年に任意団体になりました。活動目的は、子ども、居場所づくり(学校でも家庭でもない第三者と繋がれる場、子ども同士の繋がる場、同じ母語で話せる場)日本語支援、進路支援、自立支援(気持ちの支援)、保護者支援(書類の書き方・お金の事)、多文化共生社会活動などです。毎週土曜十時からの学習支援では、学校の先生にも送り迎えなどの協力を頂き大変助かっています。十一時からのおやつは無くてもいい楽しい時間で、当初は百円頂いていたのですが、払えない子どももいるため無料とし、代わりにカン



▲みんないい笑顔 (夏休み編 2015)

パ箱を置いています。夏休みの支援活動は体験の機会にもなっています。自分達で作ったそれぞれの国のおやつやスイカ

榎井 縁さん

●プロフィール●

大学卒業後ネパールで活動、チベット難民児童の教育支援団体を設立。中学校教員、のち在日外国人教育の調査や相談に携わる。国際交流協会で外国人との地域再構築を試み、現在は「共生」を実践できる大学院グローバル人材育成を行っている。



ている状況が、フィリピンでは社会問題になっています。JFC (Japanese-Filipino Children) は、マニラを中心に二十万人いますが、こうした人びとが今度は日系人によって、技能実習などの新たな安い労働力として来日しています。二〇〇八年リーマンショックで使い捨てられた日系人たちは、生活者として生き残るための支援を受けられないでいます。困窮状況で子どもが学校に行けないことも起こっています。日

Essay. I
市民活動をサポート!

つながる・ひろがる・
支えあう

NPO法人まちづくりネット東近江は、事務所が東近江市役所内にあります。事務局スタッフは4名です。

市内の市民活動団体を支援する仕組みづくりとして「つながる」「ひろがる」「支えあう」を基本に、団体同士をつなぎ、新たな出会いを生み出すことを目標にしています。

市民活動団体が一同に集り、団体同士の交流と市民に広く知ってもらうことを目的に開催した「わくわくこらぼ村」や、運営支援のための会計講座やチラシ講座などを開催したり、東近江のいいところ・いいこと・いいひとを紹介する広報誌「にじまち」を年間4回発行しています。

また、市民活動団体の自立した運営を支援するために、事業指定寄付制度「にじまちサポーターズ」を実施、市内の市民活動団体を市民で支えることを目的にした寄付の取り組みを行っています。

今後も、市民にとってどのような支援が必要なのかを考え、ニーズに応えられるスキルを磨くように努力を続けたいと思います。



特定非営利活動法人
まちづくりネット東近江

堀内 貴弘 (ほりうち たかひろ) さん

本語を学ぶ義務も機会も保障も無く、地域の日本語ボランティア教室が代替となっています。この支援は、単に語学の習得だけでなく、誰からも裁かれず保護される場・サンクチュアリ(聖域)として子どもが学校に行き続けられるように見守るという役目もあります。どんな外国人の子どもも高校卒業まで、学校に在籍すべきだと考えます。日本人の親たちが普通に持っている社会資源を持たない外国籍の親の子どもだからこそ、高校の三年間でなんとか社会資源を身につけることで、やっていけるのではないのでしょうか。夢を持っていない子どもたちが、支援にかかわる大

学生や大人から、「大丈夫だよ」といつてもらえるような環境が大事だし、見守られているという感覚で強くなれると感じます。日本人の隣人に出会い助けてもらい、いい関係をつくれたといういい話も聞きました。日本は国としての整備が遅れている分、地域の隣人たちが助けるという構造になっています。

※一九九〇年の出入国管理及び難民認定法で日系三世に与えられた「定住者」という在留資格のこと。その他、「定住者」には、「第三国定住難民、中国残留邦人等」が該当する。

次ページへ



▲しっかり学習タイム

DATA
ワールドアミーゴクラブ
代表理事：吉積 尚子(よしづみ ひさこ)
連絡先：近江八幡市鷹飼町361-72
TEL：080-3834-8095
E-mail: world.amigo.club@gmail.com

割り、うちわを作ったり、絵本を読んだり、県立大学の学生との楽しい時間にもなり、参加人数はいつも多くなります。(特)多文化共生センター大阪代表理事などを務めておられる田村太郎氏の言葉、お互いに尊重して暮らせる」を思いおこしながら、地域の中で住みやすく理解しやすい地域になればいいと思って活動しています。

市民活動と多文化共生

改めて市民活動について

差別や排除、暴力、そして民族浄化(ジエノサイド)に繋がる可能性のあるヘイトスピーチ等はその裁く法律が日本にはないので、被害者は誰も自分を守ってくれない不安に駆られ恐怖を覚えます。日本でこの問題をおいては、なかなか共に生きる社会というのは作

外国籍住民も地域住民の一人として活躍できる社会づくりを

多文化共生支援センター

所長 喜久川 修さん

二〇〇八年九月のリーマンショック以降、それまで県内に登録されていた約三万六千六百人の外国籍の方は、二〇一四年現在約二万三千五百人にまで大きく減りました。彼ら外国籍の方の日々の暮らしの様々な問題に取り組んでおられる多文化共生支援センターの喜久川所長にお話を伺いました。

「多文化共生」をどのように考えればいこうでしょうか

外国籍住民も地域を構成している住民の一人だという考えです。以前は、県や市が姉妹都市の関係を保っている地域へ出かけて行って交流を深めるという国際交流・国際理解的な考えが主流でしたが、わざわざ出かけなくても、地域の中にある多様なバック

れないと思います。次の世代の子ども達がどういった関係を作るのかというのも大事だと思います。既に活動されている皆さんは、いい関係へと繋げ、強め、揺るぎないものにされています。再度、市民活動ができる多文化共生への一歩をあげるならば、外国人に対する配慮は特別扱いではない、日本人にすでに配慮されていることと同

グラウンドを持った外国籍住民と共に生きるという事です。外国籍約二万三千五百人のうち、約三割がブラジル人、韓国・朝鮮、中国・台湾がそれぞれほぼ二割になっています。外国籍の比率の高い市町は、湖南市の約四〇％、愛荘町の約三二％、甲賀市の二二・八％と続きます。

じことを保障しようという「配慮^{※2}の平等」の考えの基に、承認し多様性を認め、不平等を許さない地域づくりを進めていっていただきたいと思います。

※2最近、障害学会等で言われているように、多数者への配慮は当然のこととされ配慮とは言われませんが、少数者への配慮は特別なこととして可視化されたい。



どのような事業を行っておられますか

リーマンショック以降、外国籍住民の労働条件や労働環境は厳しく不安定です。彼らの就労に結び付くための日本語学習支援や職業の紹介を行っています。日本語学習支援の必要な人は、日本人との交流が少なく日本語の分からない両親から生まれた子どもや、近年は定住に伴い母国から日本に来た子ども達も含まれます。日本語の分

県内の取り組み② 特定非営利活動法人Links(りんくす)

子どもの実情を知り子ども達に寄り添う支援を

NPO法人Linksは活動を始めて八年目、「居場所づくり」を通じて地域コミュニティの再生に取り組んでいます。参加者が一緒に調理して食べることによる地域の交流促進を目的とした「近所まつり」、地域での学習支援・居場所づくりなどです。



▲茶話会の様子

この活動を発展させ「ナカザワNEOフレンドシップ基金」へ応募し「子ども支援ボランティア養成研修と人材バンク構築」事業が始まりました。この事業のきっかけは、当団体代表理事へ交流のある彦根の中学校教員から、あるフィリピン人生徒が日本語が話せないため、学校では次第に元気が無くなり、やがては学校に来なくなるとのことだったので、代表理事は、英語の話せる学生と生徒を訪ねると、彼女は英語で意志を伝えられ非常に嬉しそうな表情をしました。しかし、継続的に支援を続けるなら大学生以外にも支援者がほしいと探したもののなかなか見つからない。数学などの教科や日本語指導という専門スキルの必要な支援ではなく、子どもの実情を知り子ども達に寄り添うような支援がまず必要だと感じました。そして、そ

～「多文化共生の地域づくりセミナー」より～



喜久川 修さん
●プロフィール●

1949年12月14日生まれ 草津市在住
多文化共生支援センター 所長
NPO法人外国籍住民自立就労協会 理事(事務局長)
滋賀県国際交流推進協議会 副会長

■多文化共生支援センター

草津市草津1丁目13-12
TEL: 077-561-5110 FAX: 077-565-6311
E-mail: info@s-h-i-p-s.org URL: http://s-h-i-p-s.org

からない子どもの場合、しだいに学校に馴染めなくなり、勉強が分からなくなると、就労もできず将来の夢も持てないという図式が出来てしまいます。一人でも多くの外国籍の子どもが学校で学び、将来は仕事に就けるよう、就学支援を目指してマンツーマンを基本に日本語教室『虹』を開いています。昨年はここで学んだ子どもが県立高校に五名合格することができました。日本語教室はボランティアの先生達が運営されています。生活相談のうえ生活支援が必要な時もありその内容は様々です。労災、交通事故、生活保護などの問題や、賃貸契約を

Essay. II

おうみ未来塾リレーエッセイ

歌を活用した地域活動

12期生 石川 輝伸(いしかわ てるのぶ)
グループ：おうみのふるさと物語プロジェクト

おうみ未来塾の卒塾生は、これまで300人を超え、各地で活躍する仲間に来て素晴らしいです。

私は、歌をまちづくりに活かしたいと思い、自作曲と、滋賀県の民謡(わらべうた・仕事唄等)を発信しています。自作曲は、栗東市役所ホームページ内の元気創造動画や、YouTube「石川輝伸」を通じて、超ローカル題材の魅力を発信しています。歌は、刷り込み効果で記憶に残ります。

滋賀県の民謡は、①グループ活動時に収集した滋賀県全域の民謡七百曲の各地を訪問して楽しく学び、②訪問箇所民謡を歌って、YouTube「おうみのふるさと物語」へ約150曲投稿し、③実際に現地で(去年は4回)民謡を演奏しました。

類例が少なく模索中ですが、②のYouTubeがきっかけで③の現地発表につながった例もあり、今後も楽しみです。



結ぶ契約書の内容の確認を頼まれたこともありました。一度相談に乗ったら、その後の困り事にも全てかわって行く事になります。

これからの多文化共生支援について一言

これからの人口減少・高齢社会に向け、いろんな業種での人手不足が懸念されます。例えば介護職員。外国籍住民の方も地域を構成する住民の一人と考えれば、是非、今後は地域住民として介護の現場で活躍が出来るような社会になればと思います。

※文中のデータ(数字)及びデータに係る文章は、滋賀県HP及び(公財)滋賀県国際協会HPによるものです。

まとめ

今回紹介した二つの取り組みは、共に身近に困った人が居て、何とか力になりたいという思いから活動を始められ実践されている事例でした。

昔から人々が暮らしの中でごく当たり前に感じて行動してきた、「困った時はお互い様」の実践が、多文化共生社会の実現だけでなく、誰もが安心して住める社会の実現にも繋がるのではないのでしょうか。

これは一般市民でも出来るかもしれないと、ボランティア勉強会(前期・後期)を開催し、学校での様子や、どんな支援が必要かを当事者から聞いています。まずは「知る」ことから始め、徐々に支援ボランティアのネットワークを芽生えてきました。



▲ボランティア勉強会の様子

DATA

特定非営利活動法人 Links

代表理事：柴田 雅美(しばた まさみ)
連絡先：彦根市平田町680-1
TEL: 090-2061-5135
FAX: 0749-26-9820
E-mail: info@npolinks.org
URL: http://npolinks.jimdo.com/

ともに Grow

県内で活躍するNPOや
社会貢献企業を
レポート!

Grow 01 市民 ● 園芸福祉活動



▲食堂の調理場に立つ西村理事長

自分のできることを見つけて、
明るく燃えて生きてます

昨年十二月二十四日(木)小春日和の日、九月に開設した「こども食堂」の特別行事「もちつき大会」の日に取材させていただいた。理事長の西村さんは陣頭指揮で走り回っているの、一段落するまでは、皆さんの活動状況

を見させていただいた。次々に餅がつきあがり、あちこちから勧められ、雑煮餅を馳走になる。餅つきが終わり、喫茶かりんの席にてお話を聞く。西村さんのNPO法人になってからの十五年の歩み、特に、この九月からは



▲春の植え替えの様子(晴嵐デザイナーズ)

ハートフルガーデナー 園芸福祉おおつ

代表●釜淵 佳明(かまぶち よしあき)
設立年●2008年1月 会員●20名
連絡先: 大津市膳所1-25-32-2
TEL: 077-575-0555
URL: <https://sites.google.com/site/heartfultotu/>

2015年びわこ市民活動応援基金助成採択団体

好きなことを仲間と一緒に楽しみながら、 まわりの人も自分も笑顔になる

ハートフルガーデナー園芸福祉おおつは、「花と緑を通して、幸せを地域に広げる」ため、福祉施設や学校、公民館等の花壇づくりのサポート活動等を大津市内で行っているボランティア団体です。二〇〇八年に園芸を愛する有志七名が集まり、福祉施設を利用する市民の花壇づくりサポート活動を始めました。翌年には、大津市公園緑地協会ハートフルガーデナー養成講座を全員が履修し、なぎさ公園花壇の管理支援などの公園花壇管理等協会用務の一部を行うようになり、活動が少しずつ広がっていきま

した。
設立当初から続けている活動の一つに、デザイナーズセンターや障がい者福祉施設の花壇の花苗の植え込みのサポート活動があります。春と秋に植え込みをする施設の花壇は、市民の「ふれあい花壇」と呼んでいて、施設利用者のみなさんと一緒に作業を行います。車椅子の方にも参加してもらい、机の上で作業できるようにした



▲通所する女性と共に植え替えました。(いしづみ会で)

り、日差しの強い日には短時間で作業が終われるようにしたりと工夫をしています。みんなで協力して植え込んで

だ後、土しかなかった花壇は、日野草の赤ペンタスのピンクなどの色とりどりの花でいっぱいになります。普段「土」と触れ合う機会の少ない障がい者や高齢者の方は、土を触り、綺麗な季節の花を見ることで自然と笑顔になります。そして、その笑顔を見て、園芸福祉おおつのみなさんも笑顔になり、そこにいるみんなが幸せな気分になります。まさに「幸せを地域に広げる」を実現しています。
(淡海ネットワークセンター 牧野 利花)



▲なのはなまつりの様子

石釜ピザにザリガニ釣り！甲賀の里山で楽しみながら環境・農業に触れられます。

甲賀市水口町、大規模団地にほど近い里山で活動されているのが「NPO法人 環境と農業の融合を考える会 鹿深の杜」です。ひととき目立つ大きなログハウスは、リサイクル企業の協力で廃材を利用し会員自ら建てられました

た。中はとても広く、囲炉裏やまきストーブが配されており、一般利用者や会員同士語り合いの場となっている。軒先には広々としたデッキも設置され、コンサートなど様々なイベントに活用されています。

社会貢献する「世間よし」企業紹介

肉のげんさん「元三フード株式会社」

本社：大津市長等2丁目3-32
 TEL：077-524-2929 (代) FAX：077-525-3749
 URL：http://www.gensa-f.co.jp

いつも想いの中にある父の教え「人の喜ぶ事をせよ」

淡海ネットワークセンター事業「未来ファンドおうみ」に、2016年度から新たに「げんさん食育NPO基金」を開設された元三フード株式会社の谷口剛代表取締役社長に、今回の基金にこめられた想いをお聞きしました。

谷口社長は幼い時から、身近で障がいのある方の生活の大変さを見てこられました。流動食を介護の手を借りながら摂られる姿から、食べることはまさに体を作る事だと感じられたのです。そのため、食べ物の質にも厳しい目を持っておられます。同社が飼育する牛は、種牛から3年をかけた飼育期間まで、一貫して衛生的な牛舎で、一頭一頭の牛に向き合いながらストレスを与えない環境で、厳選された安全な飼料で育てるなど徹底して安全安心を追求しておられます。また様々な事業環境の向上を図り、品質の国際規格では最高レベルに位置づけられるISO14001やISO9001を取得されています。創業110年を迎えた今、店舗は滋賀県内だけでなく京阪地区など直営店31店舗を



▲安心・安全な飼料と衛生的な牛舎で育つ牛



▲未来ファンドおうみに「げんさん食育NPO基金」を設立

構築られ、従業員数も300名を数えるまでの企業に成長しました。父親からは、「人の喜ぶ事をせよ」と教えられた事もあり、創業110年を機に子ども達へ何かできないかと考え、谷口社長は、「障がいのあ

る子ども達を食育などを通じて地域とともに応援している団体を支援していきたい」と基金を設立されました。

谷口社長の、肉を食べるとい事は殺生して人間は頂いている、人間の都合だけで簡単に食べ物を捨てたりしてはいけない、全て食べきって命の大切さを感じてほしいという強いメッセージが印象に残りました。

(淡海ネットワークセンター 日下部 純子)

特定非営利活動法人 スペースウィン

理事長●西村 梯子(にしむら ていこ)
 設立●2000年7月 会員●21人
 連絡先●守山市守山3丁目11-38
 TEL・FAX：077-581-8436
 E-mail：gs-win@usennet.ne.jp



▲こども食堂・もちつき大会の様子

「就労継続支援B型事業所」※スペースウィン「グループホーム やまぼうし」「相談支援事業所 はなみずき」と「喫茶かりん」「子ども食堂」などと、場所も人も成長し続けているとの事。最後にい

じまった、月二回の「子ども食堂」では、たくさん子ども達が集い、一緒に温かい食卓を囲む中で、心を開いていく事例などを教えていた

※通常の事業所に雇用されることが困難な就労経験のある障害のある方に対し、生産活動などの機会の提供、知識および能力の向上のために必要な訓練などを行うサービスです。

(WAMNET HPより)

岡崎 一郎

きいきと活動中の「スペースウィン」の仕事の現場を見せてもらい、フィナーレは、西村かあさん(理事長よりもこう呼びたい)の三十人分を賄う元氣調理師に、現場に立つてもらい撮影し、今日の感動的な取材を終えた。

特定非営利活動法人

環境と農業の融合を考える会

理事長●東澤 芳光(ひがしざわ よしみつ)
 設立●2007年11月05日 会員●45名 法人会員13団体
 連絡先●滋賀県甲賀市水口町松尾502-185(株)水口テクノス内
 TEL：0748-62-1959 (8:00~17:00)
 FAX：0748-63-1960
 E-mail：kafuka@m-technos.com

かふか もり 鹿深の杜



▲ログハウスの中には囲炉裏が！

境と農業の融合」を実践されています。

建物周辺には石釜・おくどさん・木工工房・バリアフリーのトイレなどを配置、裏手には里山の自然を活かしたザリガニ池やターザンロープなどがあり、子どもも大人もワクワク！

菜の花まつり・ひまわりライトアップ・収穫祭、などの

花、夏はひまわりが植えられ街を明るく飾ってくれていきます。毎年畑やたんぼのオーナーも募集され、まさしく「環境と農業の融合」を実践されています。

四月からはより多くの方に利用してもらおうと、活動日の第一第三土曜日に「里山の達人に学ぶ」事業を開催予定。参加費三百円でピザ作りやクラフトが体験できるそうです。

イベント時には地域の方や隣接する高齢者施設からも参加があるそうです。

「しんどい事もあるけど、やりたい人ができるように楽しんでるのが長続きのコツ」。整備された里山の真の姿は、農業や木工の作業を通じて「男の居場所」でもあるのかもしれません。

(おうみネットサポーター 鹿田 由香)

募集 未来ファンドおうみ2015年度助成事業
成果発表会を開催します

◇日時：5月14日(土) ◇会場：滋賀県県民交流センター 207会議室(ピアザ淡海2F)
※開始時間等の詳細は、当センターホームページをご覧ください。

◇成果発表団体

●おうみNPO活動基金

団体名	事業名
NPO 法人家棟川流域観光船	家棟川の自然を体験するエコツアー PR 事業
特定非営利活動法人芸術村 IN 余呉実行委員会	余呉まるごと里山芸術村 2015

●びわこ市民活動応援基金

団体名	事業名
ハートフルガーデナー園芸福祉おおつ	身障者や高齢者とともに花や緑があふれる町づくり
湖北田舎暮らしフェスタ実行委員会	湖北田舎暮らしフェスタ開催事業
虎御前山古墳と中世城郭保全顕彰会	虎御前山の古墳と中世城郭の整備、測量を行う事業
湖西いきいきネットワーク	高齢化社会を迎え撃とう！認知症と寝たきりの予防教室開催
子育てサークル「CHEERS STATION」	KOKA 子育て楽しい元気なまち作り～繋がりと共に～
NPO 法人 KENA	キッズイベントを通して留学生とこどもたちの橋渡し役をつくる

●びわ湖の日基金

団体名	事業名
びわ湖りす森倶楽部	地域を元気に びわ湖の森苗木育成事業

●積水化成品基金

団体名	事業名
NPO 法人 甲賀の環境・里山元気会	元気な里山でみんなみんな元気にああれ！

●笑顔あふれるコープしが基金

団体名	事業名
NPO 法人東近江スポーツクラブ楽苦備	3世代交流コミュニティスポーツの輪づくり
MOMO やす	MOMO やす presents おいしいもん発見体験ツアー
特定非営利活動法人青山まちづくりネットワーク	脳若返りの会～地域の高齢者への認知症予防～
特定非営利活動法人あめんど	小さな子どもたちのための食育事業

●ナカザワNEOフレンドシップ基金

団体名	事業名
NPO 法人 Links	子ども支援ボランティア養成研修と人材バンク構築
甲賀市国際交流協会	ともにいきる地域づくりのための「人」「メニュー」開発事業
日 和	外国にルーツを持つ子どもへの支援活動「日和」
鹿深でござれ！	外国人住民と住民の出逢いの過程を大切に協働作業づくり
ワールドアミーゴクラブ	外国にルーツを持つ子ども達の学習支援
湖南市国際協会	アジアとつながる架け橋「インドネシア語講座」

募集 おうみ未来塾 第14期塾生募集説明会
あなたも「地域プロデューサー」を目指しませんか！

「おうみ未来塾」は、市民活動やNPOが、地域運営の一翼を担う時代となった今、様々な地域課題に取り組む「地域プロデューサー」が育つ塾を目指しています。

「地域プロデューサー」とは、地域の課題を発見し、解決のための方策を考え、そのための運動や事業をおこなうことのできる人であると考えています。

今回、第14期塾生募集にあたり、説明会を開催しますので、ご参加をお待ちしています！

「地域プロデューサー」に興味のある方、地域の課題解決に主体的に取り組みたいとお考えの方、是非ご参加ください！

◇募集説明会 開催日時・会場
3月25日(金) 18:30～20:00
米原市米原公民館 研修室3-B

3月27日(日) 10:00～11:30
県民交流センター 302会議室

3月27日(日) 15:00～16:30
今津東コミュニティセンター会議室3

4月1日(金) 18:30～20:00
守山市民交流センター 1階交流室

4月2日(土) 10:00～11:30
あいこうか市民活動・ボランティアセンター多目的室

4月2日(土) 15:00～16:30
県民交流センター 202会議室

- ◇参加対象：どなたでも
- ◇応募期間：3月12日(土)～4月12日(火) 17時までセンター必着
- ◇応募書類等の詳細は当センターホームページをご覧ください。

編集後記

取材に訪れた際りっぱな大根や菜の花をいただきました。豊かな畑を守る人、大工仕事で建物を守る人、木を切ったり草を刈ったり里山を守る人…。会員の皆さんの地道な活動があってこそこれだけの環境が整備できるのだと知りました。感謝しながら楽しく利用させていただきたいです。
(おうみネットサポーター 鹿田 由香)

ホットな話題の「こども食堂」の最前線のNPO法人スベールさんの暮れの特別行事「もちつき大会」の日にセンター職員と一緒に取材させていただきました。まだ始めて4ヶ月の「こども食堂」ですが、それなりの成果がでているとのことでした。キーマンの西村理事長のキャリアー、組織開発力の活動現場を見聞きできた、感動的な取材に巡り会い、素敵なクリスマスプレゼントをいただけた幸運に感謝します。
(おうみネットサポーター 岡崎 一郎)

おうみネット 97

●2016 春号●



Ohmi Network Center
淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

- 〒520-0801 大津市におの浜1-1-20
ピアザ淡海2階
- TEL 077-524-8440
- FAX 077-524-8442
- http://www.ohmi-net.com
- E-mail:office@ohmi-net.com
- 開館時間 / 9:00～17:00
休館日 / 月曜日・祝日

●情報交流誌「おうみネット」は登録いただいている県内外の団体・個人のほか、次のところに配布しています。(50音順)

関西アーバン銀行、京都信用金庫、県内公民館、県内公立施設、県内市民活動支援センター、県内社会福祉協議会、県内市役所・役場、県内図書館、県内中学校・高校・大学、滋賀銀行、滋賀県信用組合、滋賀県庁、生活協同コープしが、他

市民活動・人・企業との出会い広がる情報交流誌
「おうみネット」 掲載広告募集中!

- ★発行部数10,000部
- ★県内外の配布先約2,000カ所
- ★1枠(横9.3cm×縦3.5cm)15,000円



詳細は、当センターまでお問い合わせください!

おたがいさまがつながり、活きる。

未来ファンド 個人の気持ち、企業のCSR
おうみ 様々な“志”を地域に支える市民活動へ、しっかりつなぎます。

寄付をお考えの方、詳しい内容を知りたい方は、淡海ネットワークセンターにお気軽にお問い合わせください。



この印刷物は大豆油インキを包含した植物油インキを使用しています。